



プレスリリース

平成22年11月 9日
内 閣 府
原子力政策担当室

第11回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合 の開催について

○内閣府（原子力委員会）は、11月18日（木）に中国、北京（釣魚台国賓館）にて、「**第11回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合**」を開催いたします。

○FNCAは、平成11年に設立された、我が国主導でアジア地域の原子力技術の平和的で安全な利用を進めるための協力フォーラムです。（ホームページ：<http://www.fnca.mext.go.jp/>）。FNCA大臣級会合は、アジアのメンバー国の原子力担当大臣クラスが、原子力技術の平和的利用に関する地域協力のために、年一回政策対話を行うものです。

○今次会合は、現行のメンバー国10か国（日本、オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム）に、新たにカザフスタンとモンゴルの2か国を加え、全12か国にて、より一層のアジアにおける、農業・医療・工業の各分野での協力活動を積極的に推進するとともに、原子力エネルギー利用に関する知見の情報交換を行い、アジア地域の原子力技術の平和的で安全な利用促進のための議論を行う予定です。

1. 主 催 内閣府（原子力委員会）、中国 国家原子能機構（CAEA）
2. 開催日時 平成22年11月18日（木）
※17日（水）は上級行政官会合を開催（プレスオープンなし）
3. 開催場所 中国 北京 釣魚台国賓館（地図別添）
4. 参加予定国
日本、オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、カザフスタン、モンゴル
5. オブザーバ
IAEA技術協力局がオブザーバとして出席予定

※1）日本からは、近藤駿介原子力委員会委員長、尾本彰原子力委員会委員及び町末男FNCA日本コーディネーター等が出席する予定。（大臣クラスについては調整中）

5. 報道関係者の傍聴及び取材

報道関係者の傍聴及び取材は、11月18日(木)の開会セッション(9:00～9:40)、及び同日の閉会セッション(16:30～17:00)のみ可能です。傍聴や取材、カメラ撮り等を希望される報道関係者は、セキュリティの都合上、中国政府への事前登録が必要です。開催前(11月11日(木)15時)までに、以下の問い合わせ先にご氏名、ご所属及びご連絡先をご登録下さい。登録された方には、追って詳細をご連絡します。

なお、取材は1社につき原則1名(撮影・照明のために入場する報道関係者は除く。)とし、会議室への入室の際には、登録された本人であることが確認できるものを提示していただくとともに、社名入り腕章を着用して下さい。

(問い合わせ先)

内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付 原子力担当
金子、朝岡、濱田、根塚
電話：03-3581-6690(直通)
03-5253-2111(内線44647)
FAX：03-3581-9828

(別添 1)

第 11 回アジア原子力協力フォーラム (FNCA) 大臣級会合 会合プログラム案

平成22年11月18日(木)

● セッション1:開会(9:00~9:40)(プレスオープン)

- 1. 開会挨拶
- 2. カザフスタン、モンゴル加盟紹介、歓迎の挨拶
- 3. 各国参加者紹介
- 4. 上級行政官会合の報告

セッション2:カントリーレポート

セッション3:FNCA 活動報告

セッション4:円卓討議(原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力)

セッション5:円卓討議(放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力)

セッション6:決議に関する討議

● セッション7:閉会セッション(16:30-17:00)(プレスオープン)

- 1. 決議確認
- 2. 次回開催国挨拶
- 3. 閉会挨拶
- 4. 共同記者会見

(別添 2)

アジア原子力協力フォーラム (FNCA: Forum for Nuclear Cooperation in Asia) の概要

1. 概要及び目的

積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的发展を促進することを目指す

2. 参加国

現行のメンバー国である、日本、オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの10カ国に、新たにカザフスタンとモンゴルの2カ国が加わり、全12ヶ国が参加予定

3. 経緯

原子力委員会が主催して開催してきた、近隣アジア諸国の原子力関係者が一同に会し、情報交換及び地域協力のあり方を議論する場であった「アジア地域原子力協力国際会議」を発展的に改組し、平成11年4月に「アジア原子力協力フォーラム」が発足した。

＜原子力政策大綱における位置づけ(アジア諸国との協力部分)＞

我が国が主体的・能動的に協力を行う国・地域は、地政学的にも経済的にも緊密な関係を有するアジアを中心とする。(略) これらの協力に当たっては、相手国の自主性を重んじ、パートナーシップに基づくことを基本として、例えばアジア原子力協力フォーラム(FNCA)、IAEAのアジア原子力地域協力協定(RCA)といった多国間の枠組みや、二国間及び国際機関を通じた枠組みを目的に応じて効果的に利用することが適切である。

(参考)「アジア地域原子力協力国際会議」は平成2年、アジア地域での放射線利用や研究炉での利用の推進に貢献するために、日本主導で設立された。平成10年、これまでの協力活動全体を総括し、内外との連絡・調整を行う「コーディネーター」を各国から選任し、その下で専門的見地から活動する「プロジェクトリーダー」を各協力分野ごとに選任し、より組織的な協力活動を進めることのできる FNCA 新体制に移行した。

4. 枠組み

① 大臣級会合

各国の原子力を所管する大臣級代表が出席して、原子力技術の平和利用に関する地域協力のための政策対話を行う。なお、大臣級会合を補佐するための上級行政官会合を付設。日本と参加国で交互に毎年1回開催。

(開催実績)

- 第1回大臣級会合：平成12年11月(タイ)大島科学技術庁長官出席
テーマ：「原子力利用の推進」、「原子力安全」、「地域原子力協力の推進」
- 第2回大臣級会合：平成13年11月(東京)尾身科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「持続可能な発展と原子力」、「放射線利用分野における協力のあり方」
- 第3回大臣級会合：平成14年10月(韓国)細田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「人材養成戦略」、「持続可能発展と原子力」
- 第4回大臣級会合：平成15年12月(沖縄)茂木科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「放射線・ラジオアイソトープ利用の社会・経済的効果の増大」
「持続可能な発展と原子力エネルギー」
- 第5回大臣級会合：平成16年12月(ベトナム)棚橋科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「FNCAの今後のあり方」
- 第6回大臣級会合：平成17年12月(東京)松田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「科学技術と原子力」
- 第7回大臣級会合：平成18年11月(マレーシア)平沢内閣府副大臣出席
テーマ：「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」
「原子力エネルギーの広報」
- 第8回大臣級会合：平成19年12月(東京)岸田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギーの平和利用への取組みとFNCA活動」
「放射線利用を中心としたFNCA活動」
- 第9回大臣級会合：平成20年11月(フィリピン)増原内閣府副大臣出席
テーマ：「原子力発電の基盤整備のための協力」
「放射線利用のさらなる促進のための協力」
- 第10回大臣級会合：平成21年12月(東京)菅科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力」
「放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力」
- 第11回大臣級会合：平成22年11月(北京)
テーマ：「原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力」
「放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力」
- 第12回は日本がホスト予定

② 「検討パネル」

平成16年から平成18年の3ヵ年間「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネル(第1フェーズ)を開催し、アジア地域における長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から原子力エネルギーの役割を評価した。

その結果を受け、第2フェーズとして平成19年から平成20年の2ヵ年間「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」を開催し、1)原子力発電分野における人材養成、2)原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について議論を行なった。平成20年11月にマニラで開催された第9回FNCA大臣級会合では、第3フェーズとして平成21年から3ヵ年間「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」を開催することが決定された。

(開催実績)

■第1フェーズ

「アジアの持続的发展における原子力エネルギーの役割検討パネル」

- 第1回 パネル会合 平成16年10月 東京
- 第2回 パネル会合 平成18年1月 東京
- 第3回 パネル会合 平成18年11月 敦賀

■第2フェーズ

「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」

- 第1回 パネル会合 平成19年10月 東京

テーマ:原子力発電分野における人材養成

議長:杉本 純

(独)日本原子力研究開発機構(JAEA)原子力研修センター長

→ フォローアップとして、「原子力発電のための人材養成データベース」をJAEAの委託で実施。平成21年4月から運用開始。

- 第2回 パネル会合 平成20年9月 東京

テーマ:原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について

議長:早田 邦久

原子力安全委員会委員

■第3フェーズ

「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」

- 第1回 パネル会合 平成21年7月 東京

議長:伊藤 隆彦

原子力委員会委員、中部電力株式会社顧問

- 第2回 パネル会合 平成22年7月 韓国

共同議長:尾本 彰

原子力委員会委員

Mr. SHIN Jae Sik(シン・ゼシク)

韓国教育科学技術部(MEST)原子力局 原子力協力課長

- 第3回 パネル会合 平成23年 インドネシア(開催予定)

※パネルは4年目以降も継続することを前提とし、3年目の会合において議論の対象範囲と内容を改めて検討することとした。

③ コーディネーターとコーディネーター会合

自国におけるFNCAプロジェクトの実施に責任を持つとともに、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を持つコーディネーターが各国から1名選任されている。プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画を討議するため、コーディネーター会合を年1回日本で開催。日本のコーディネーターは町末男文部科学省参与。

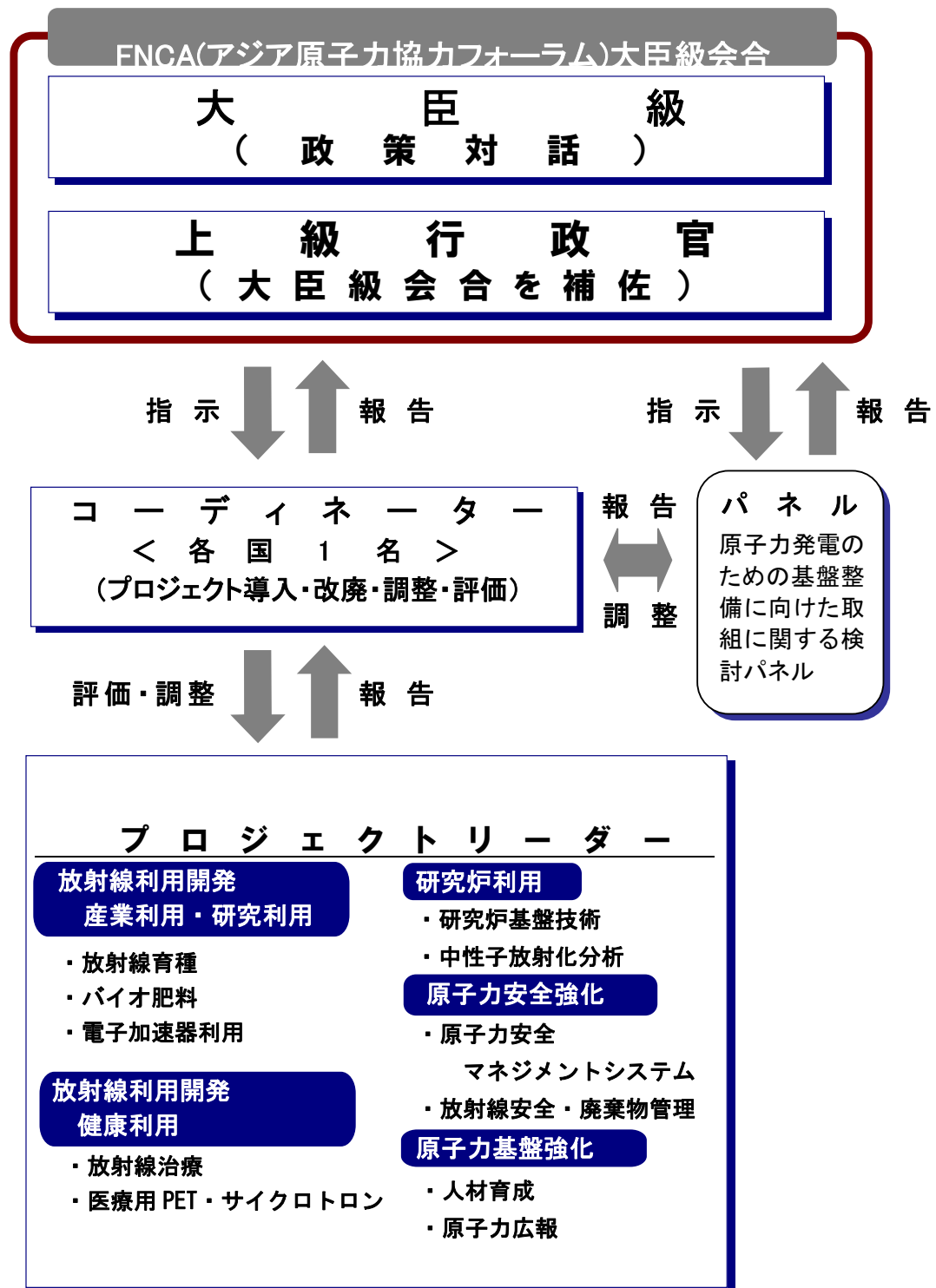
(開催実績)

- 第1回 コーディネーター会合 平成12年3月 東京
- 第2回 コーディネーター会合 平成13年3月 東京
- 第3回 コーディネーター会合 平成14年3月 東京
- 第4回 コーディネーター会合 平成15年3月 沖縄
- 第5回 コーディネーター会合 平成16年3月 東京
- 第6回 コーディネーター会合 平成17年3月 東京
- 第7回 コーディネーター会合 平成18年3月 東京
- 第8回 コーディネーター会合 平成19年2月 東京
- 第9回 コーディネーター会合 平成20年3月 東京
- 第10回 コーディネーター会合 平成21年3月 東京
- 第11回 コーディネーター会合 平成22年3月 東京
- 第12回 コーディネーター会合 平成23年2または3月 福井(開催予定)

④ 個別プロジェクトについての協力活動

FNCAは、放射線利用開発 産業利用・研究利用、放射線利用開発 健康利用、研究炉利用、原子力安全強化、原子力基盤強化、の5つの分野で11のプロジェクトを展開している。プロジェクト毎に各国1名のプロジェクトリーダーが任命されている。各参加国のプロジェクトリーダーは、自国におけるプロジェクト活動を実施していく責任を有する。プロジェクト毎に、通常年1回のワークショップ等を開催し、それぞれの国の進捗状況と成果を発表・討議して、次期実施計画を策定する。

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の枠組み



(別添3)

会場地図

会場:中国 北京 釣魚台国賓館

(Diaoyutai State Guesthouse (钓鱼台国宾馆))

